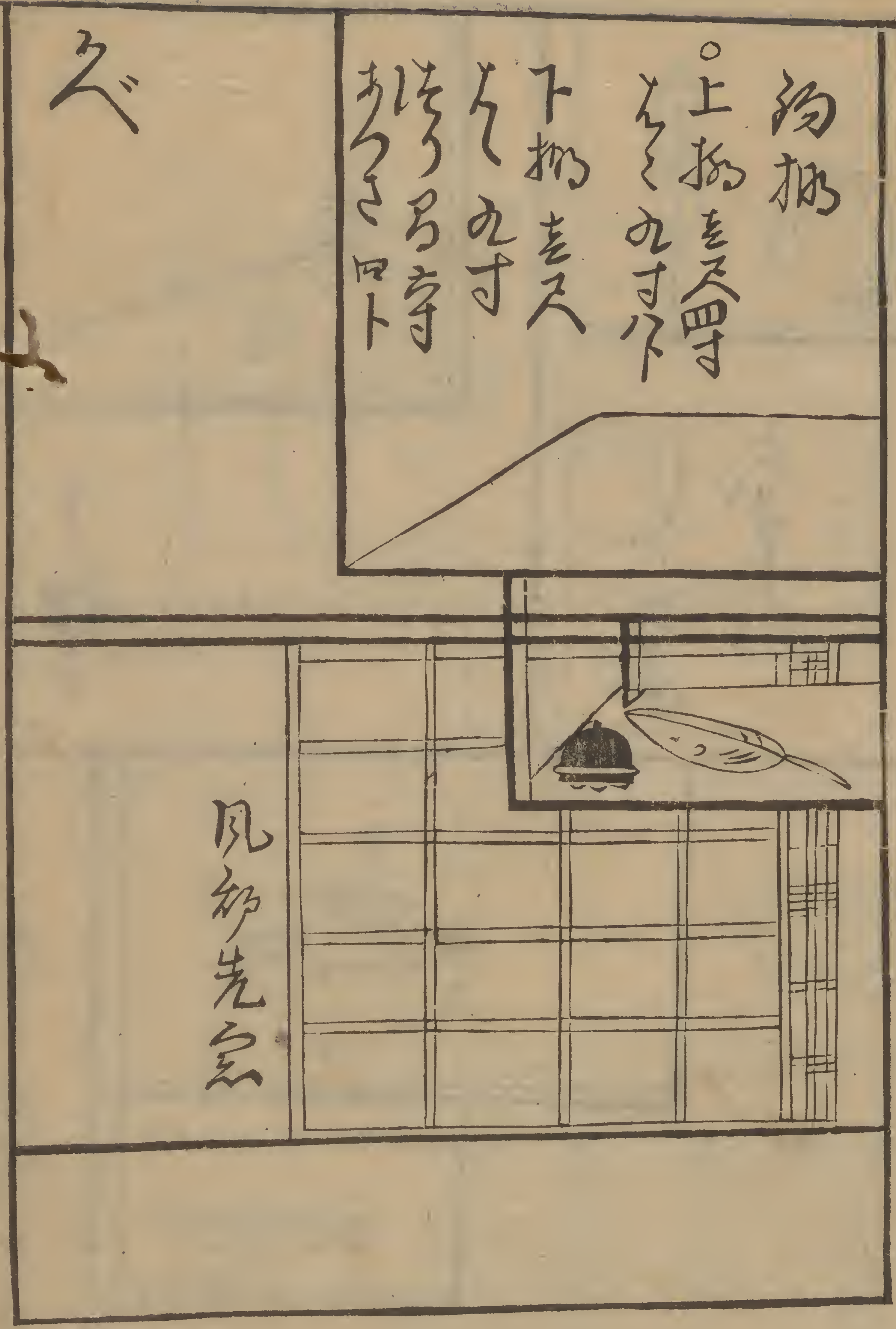
茶湯獨り讃

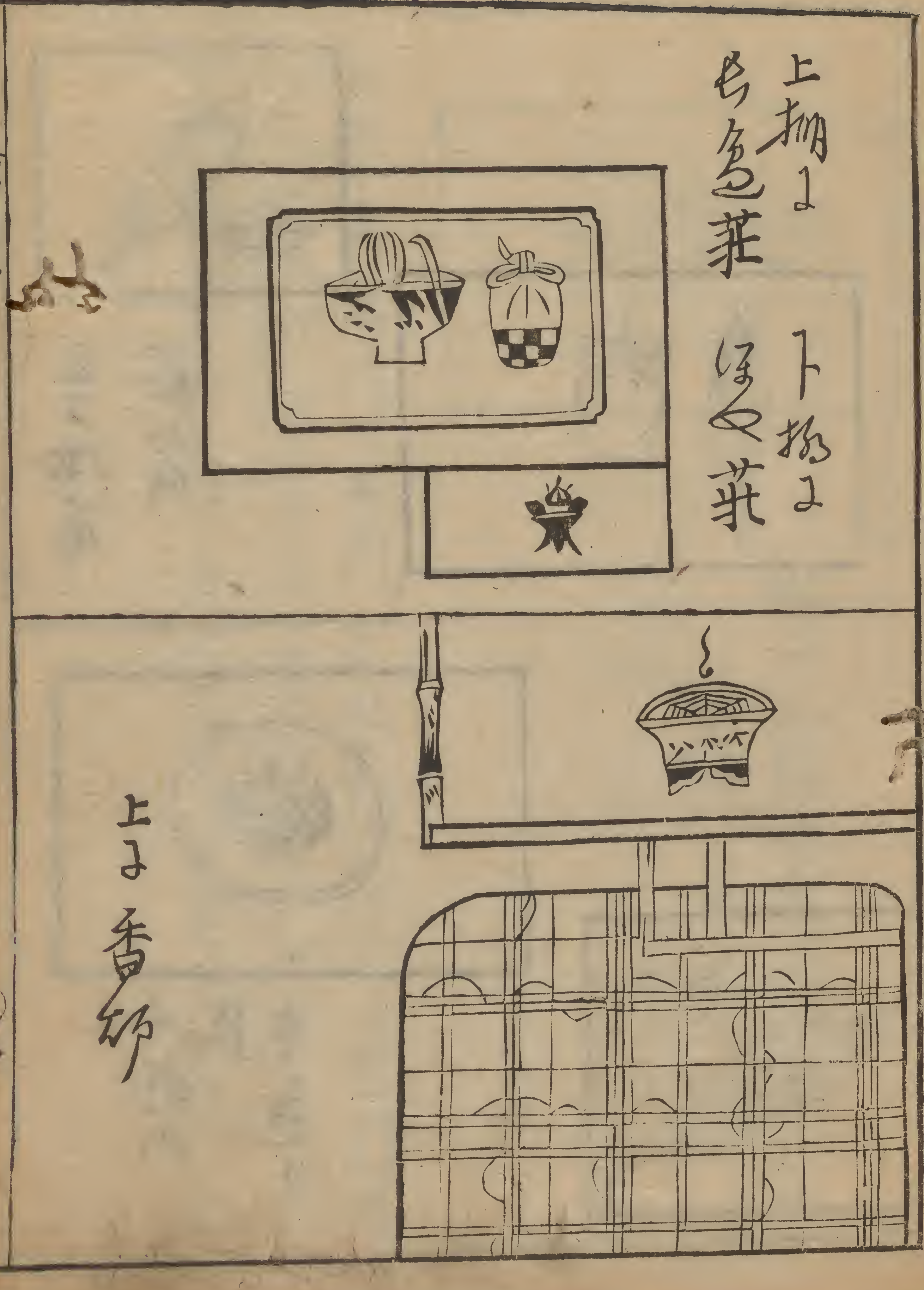
二

452

茶湯獨傳巻二

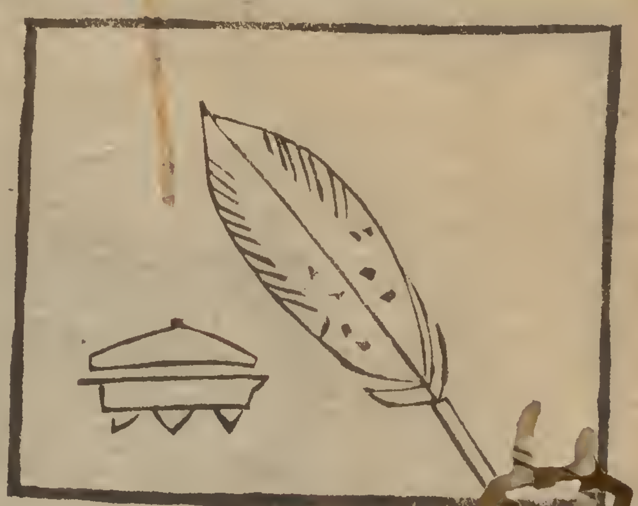
○地爰三尺　○地爰ゟ二尺三寸



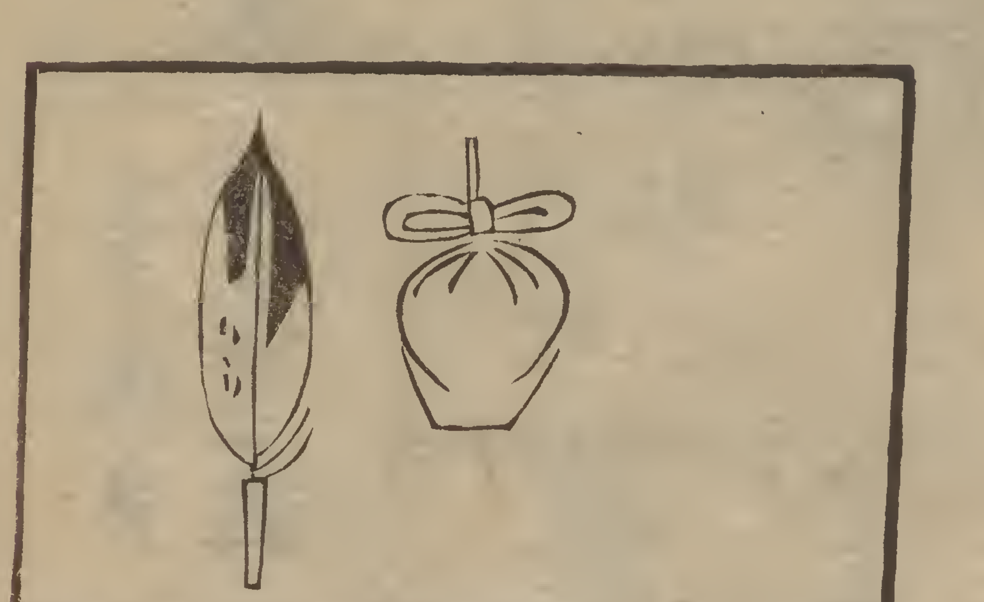


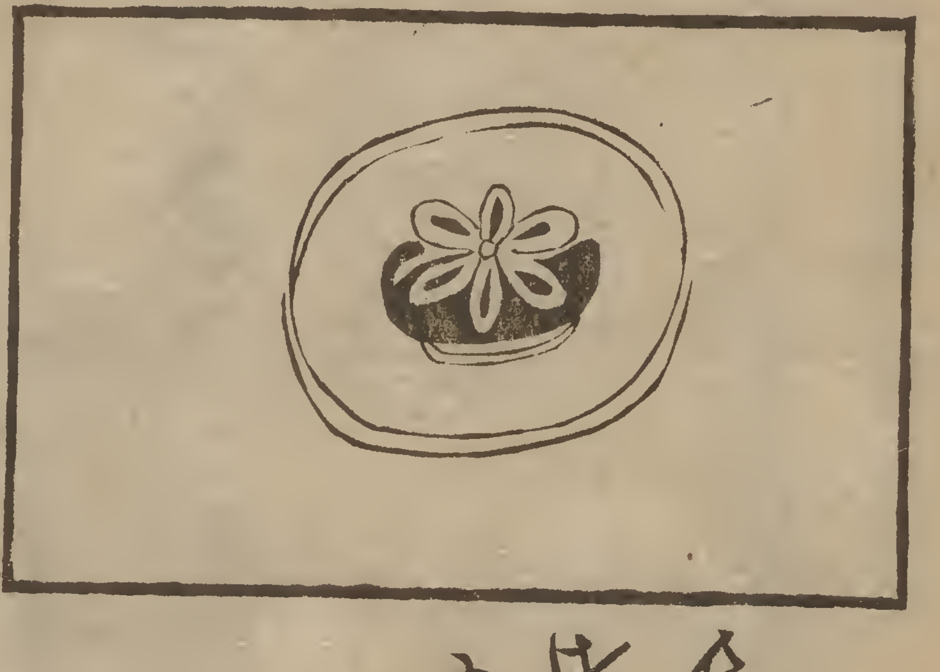
上棚ニ
荘
下棚ニ
荘
上ニ
香炉

下棚ニ
上棚ニ茶碗ニ茶入を入荘
下棚ニ
荘

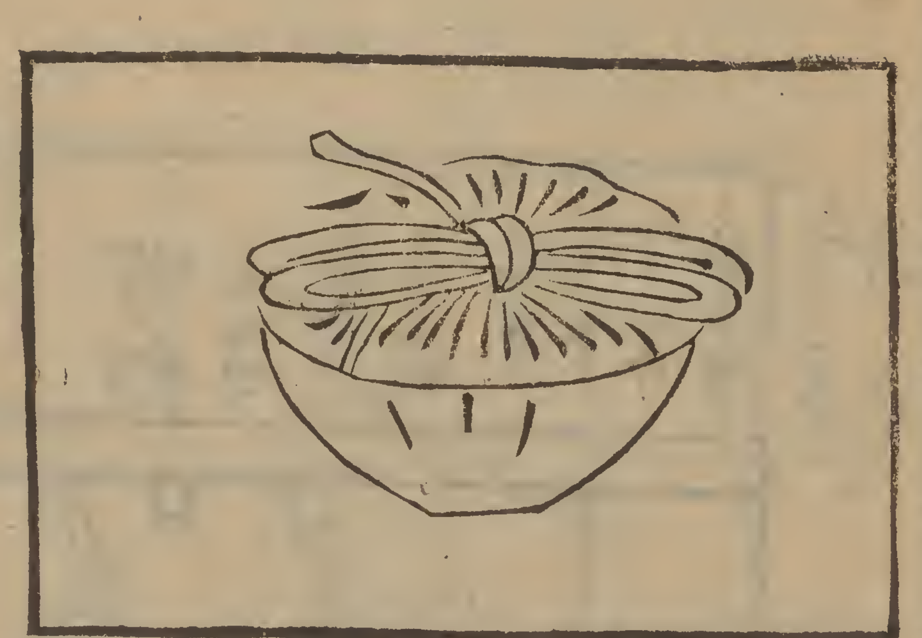


壱ツ物有
荘也





右飾の
皮
包也

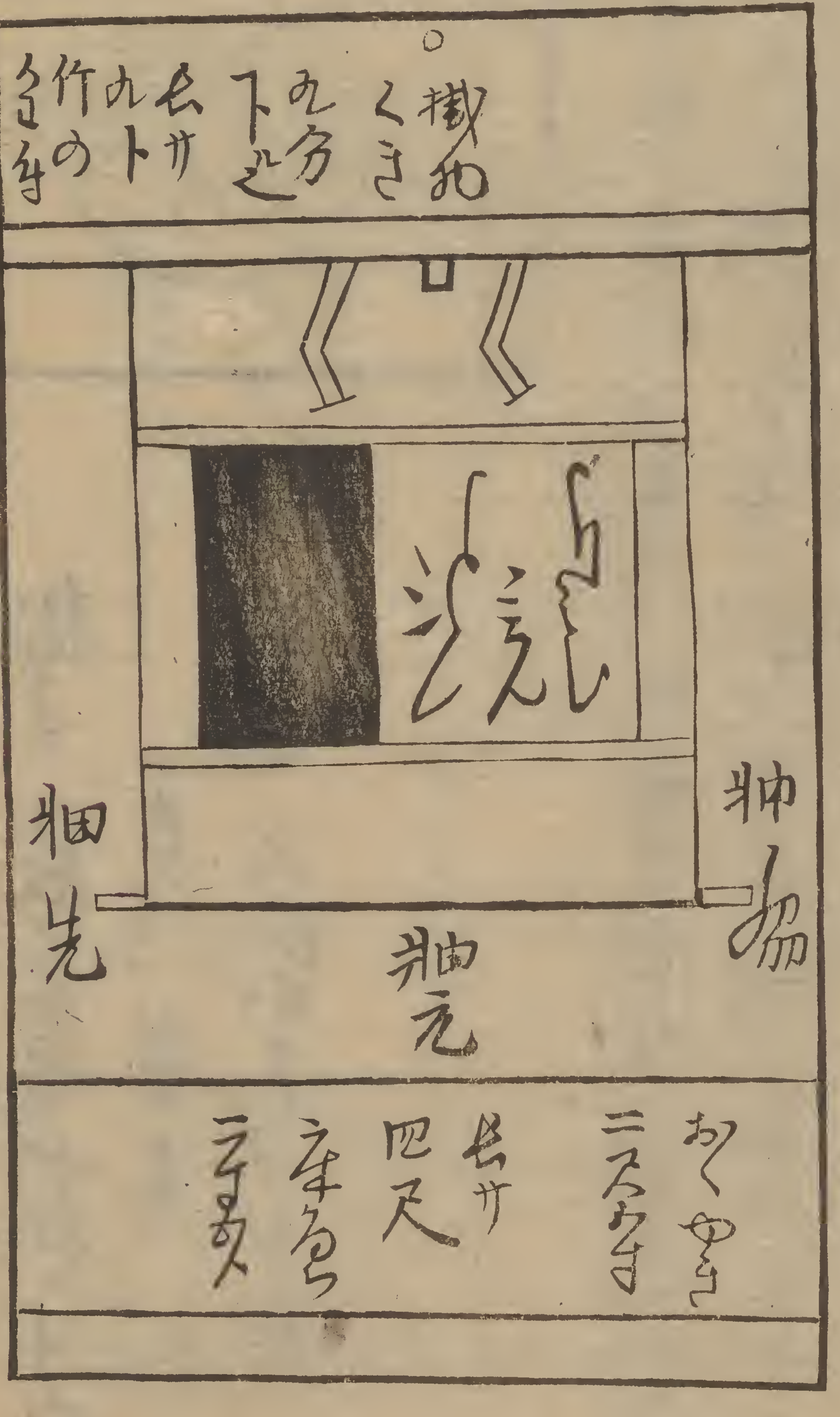


郷ハ 袋茶碗荘ル有
右飾羽有
初ハ 大臣包く者

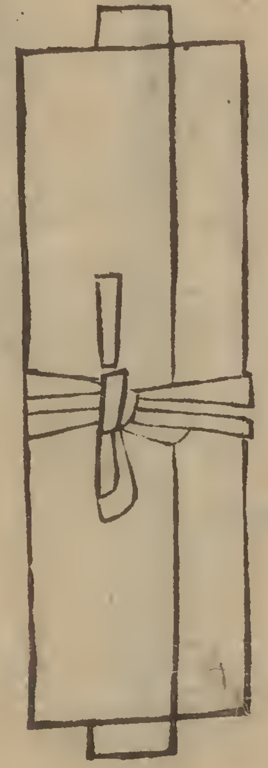
二重揃の竹ハ竹折贈物ぬ゛を見ハ利生
ひなり爺ひなり此之まり揃包のよくし
此揃物ハひなり揃とも云ふしと此ハ伝し

床柱ハ杉のさゝと
杦のな年とし

床脇之図



○掛物表具の事墨蹟并出家衆ハ
絵の軸かけたる吉ちんちし
掛物ハ軸紙のきうぬやふはくろくり右
但巻物絵子のまゝ可隠密べし



床の掛物の内ま ひきく 天井の中通ニかけ立

一重切

亭の花いけうけの
ふさかなかさへ
ニす

竹之花生　花いけんの器
いけも尾云なけいま挿と云れハ花入と生る
りうら亭主れん入と見ゆる人くりしき物や

尺八切

多ここ花入と生ケて吉

花入二ツ切

宗和形ニ多し

げんのう
ちるほと ぬかとく
見しうろすきもの

二重切 下は砂
もとを入れすも
あり ゑとめ

急げも入

竹ノ瓶ハ
床の中角乃
おとしまよ
色ちよ
り

みつの入物
の中よろしきもの

竹筒形ニ一文字
の二重切

盂撓

見付

弦本ニ ともゐ

ちなひけのくさき ともだしと云

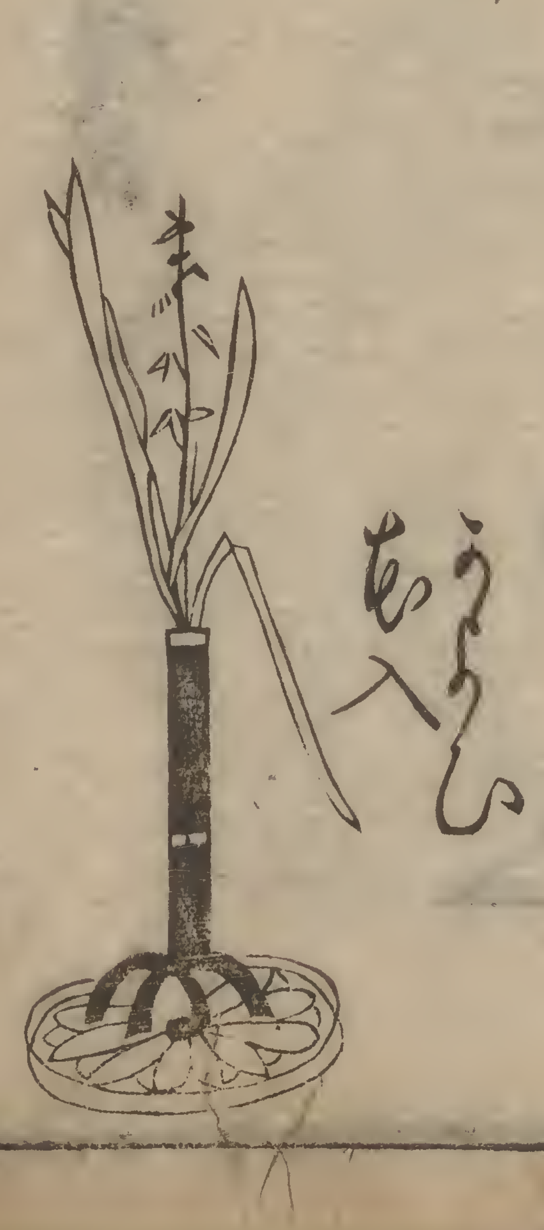
蕊

竹之臺 ちなひけ

紫 右同

細撥花生

うつし 花入

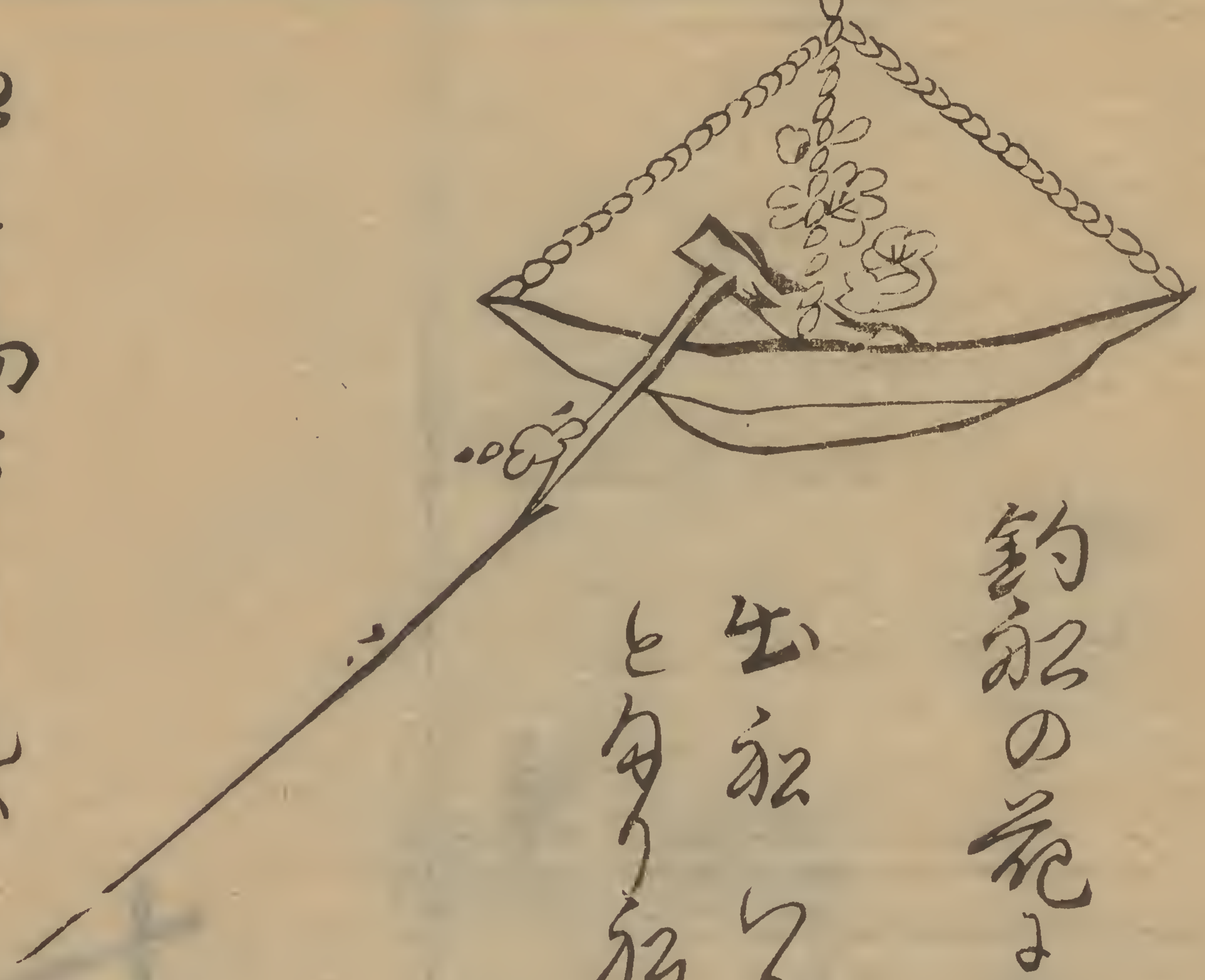


細口

廣口

串

抛茶湯方生花ハ
立花のいけ方と違ひてゆるゝとして生ケべし

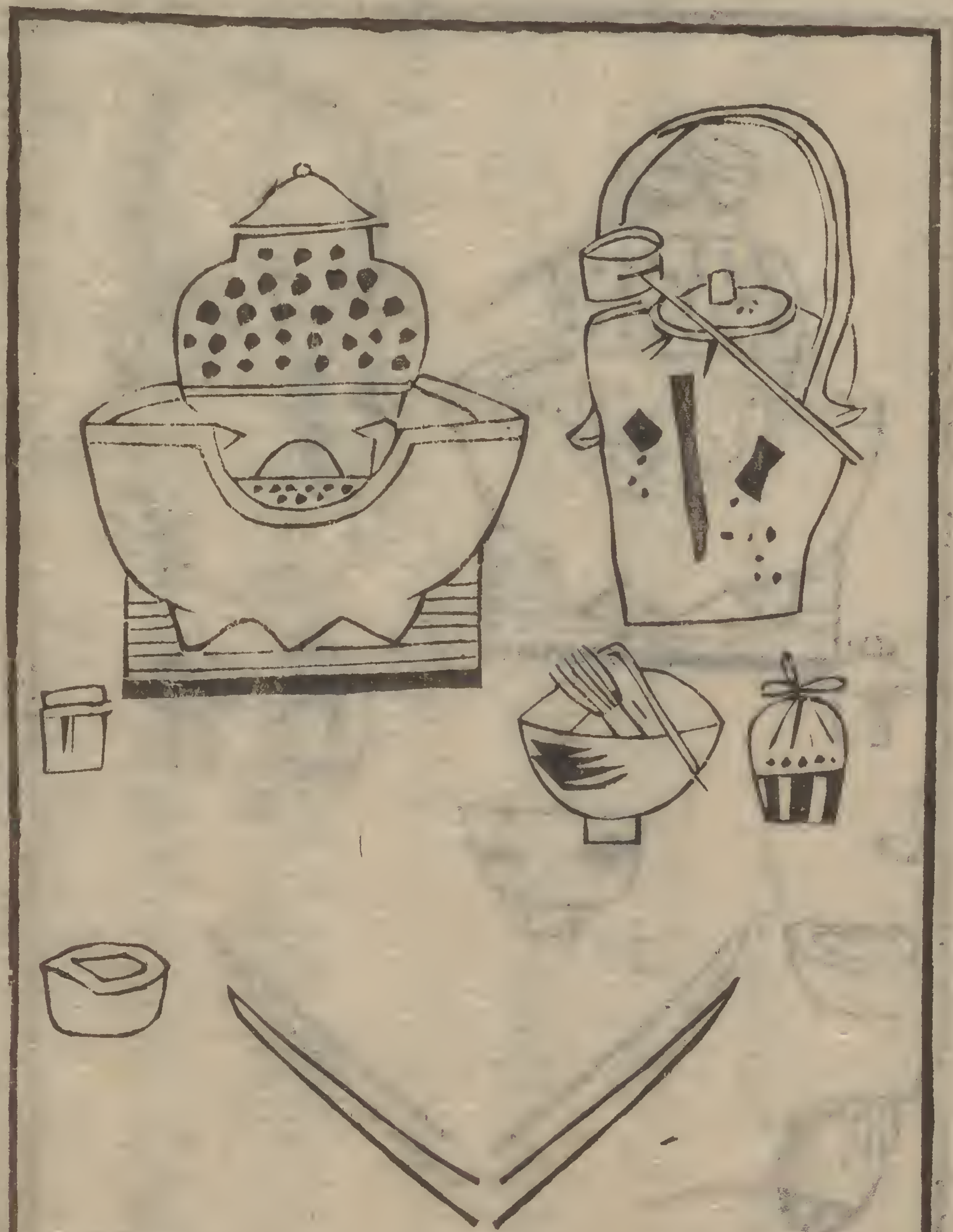


釣船の花よせ之
出船 入船
と留り船

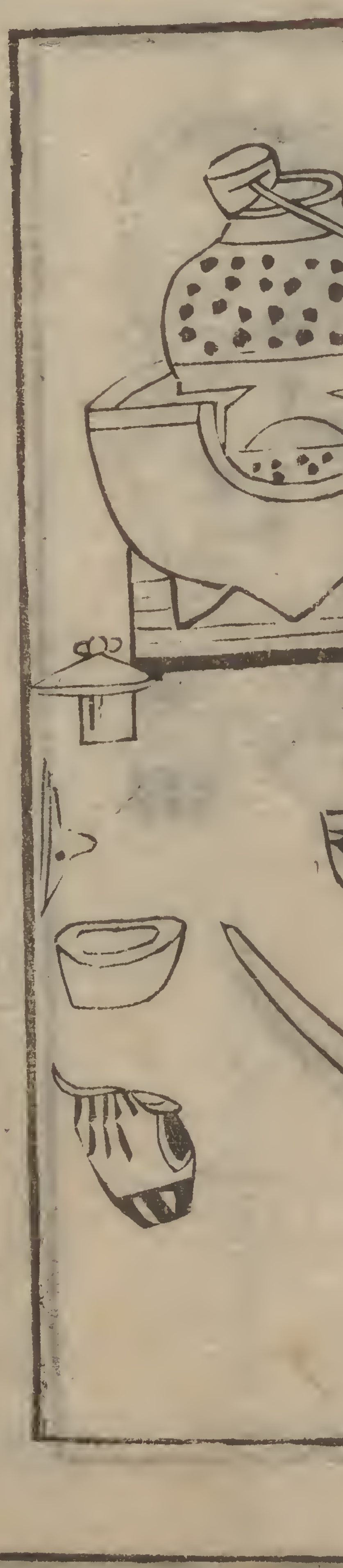
炭ハ使様さまざまにて
流義あれども 一流
万とおなじ
白炭ハ ひつ壺のふたにハ
なりて 継炭に御列
又火ぐらと云ものもある有

切炭扱ハ切ラシヲ寸法川口切まじらうて組流
炭切り寸ごニ合切切又多ぐし流之

風炉荘付



風炉茶立器



四月朔日より九月の節句迄也　此手前立振

向立のかくん大臈台　・揚炉法ハひやうえ
竈んすゐ
一風炉ハ灰の志やうもう了きしき　先一文字
ゆて左のむらくの様分列出来し一よくの
かんも別名ル茶杓を亮色壽の土器　月土器
双土器とて土器不色有
風炉ハ掌呂風炉利休紙欄ア紙掌乳
形あり鉄風炉ハ透手ちかくてくてん風ら
まつら風ら個足乳足
又小ろきの風ら赤ちや鉄風ら飯銅又焼あ
風ら深草焼渋ちおもらき一寒面と鐵

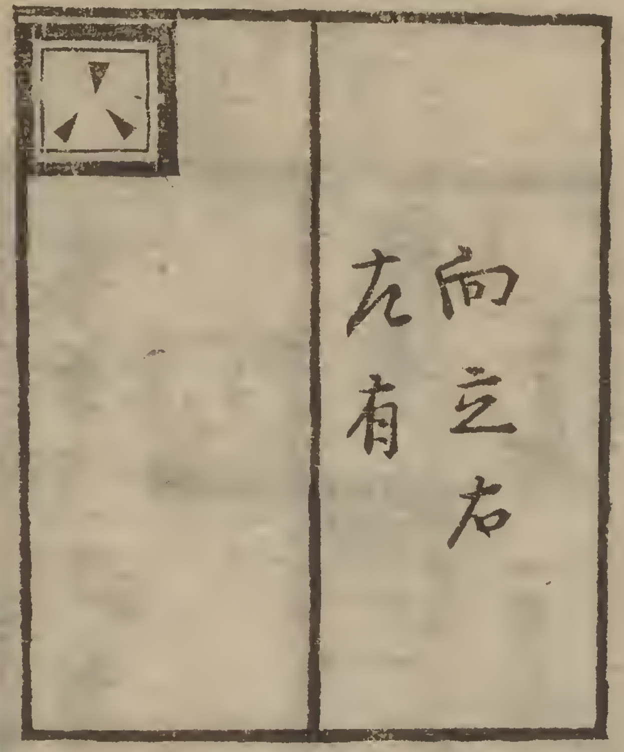
さ剣形に 紹のまきのごとし
一 山とうすは 利休鐵タ 唐剣形
唐津みそんがいあるをまうさ灰 藁灰を
一 あかし 紹九 紹九 青磁 あんなん 瀬戸 いご
ひだ山 ちりさしのつき ありしらいは ちまし
一 茶碗 高麗 大唐名物 井戸 なまこ 三島も
貝 伊羅保 ごのみ やけんずく 雲鶴 金海 を
茶入 瀬戸 備前 信楽 薩摩 押物
唐物
一 風炉 小茶杓ト云 有之 てんみやう 阿弥陀
池 真の 真の 真の 茶車 車軸
桶茶 まえ茶 輪口 鶴口 みづさし 茶大成

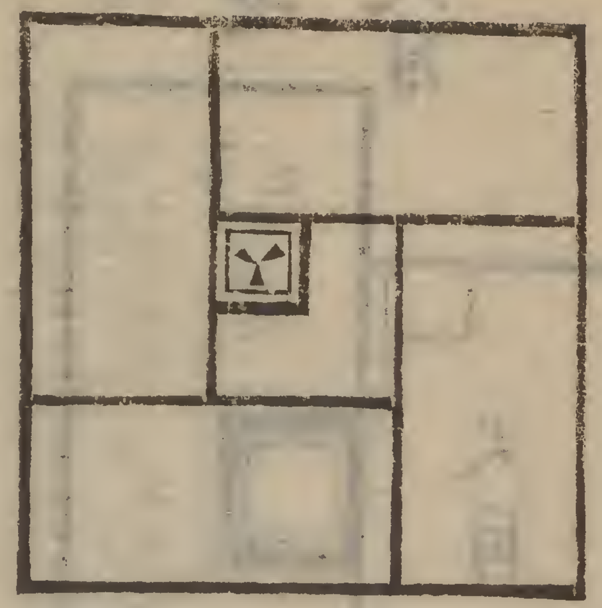
からかね釜も古
一 茶入は 文林 丸 肩衝 茄子 耳付 丸壺 大
海 うらみ 瓢 ならびたつま 鶴首 瓢箪 尻
瀬戸 数多 瀬戸 数多 三ツ 是 まりこ
ありて 古へ業ある 白 古瀬戸
一 茶杓は 竹あり 象牙あり 後 有 有
利休 紹鴎 唐剣 形 金銀 頂 切 見
面取 鬼面 中次 … 別 漆へ
風炉 唐 一みしう みかき 唐山 石つけ
… 菊 柏 …の 大 …
兄送り … つけ 宗 … 仕 …
よい … 口 … 云 明 … 紹大成

一風炉ハ三ツ七ツと云習也
なる也荘子仕舞分　三ツ物打の事実ニ也
一少抜ハ丸抜八角抜也　居台の下なる
さしを退と云之
あしハ大抜大丸抜　南代　少抜ハ大茶台

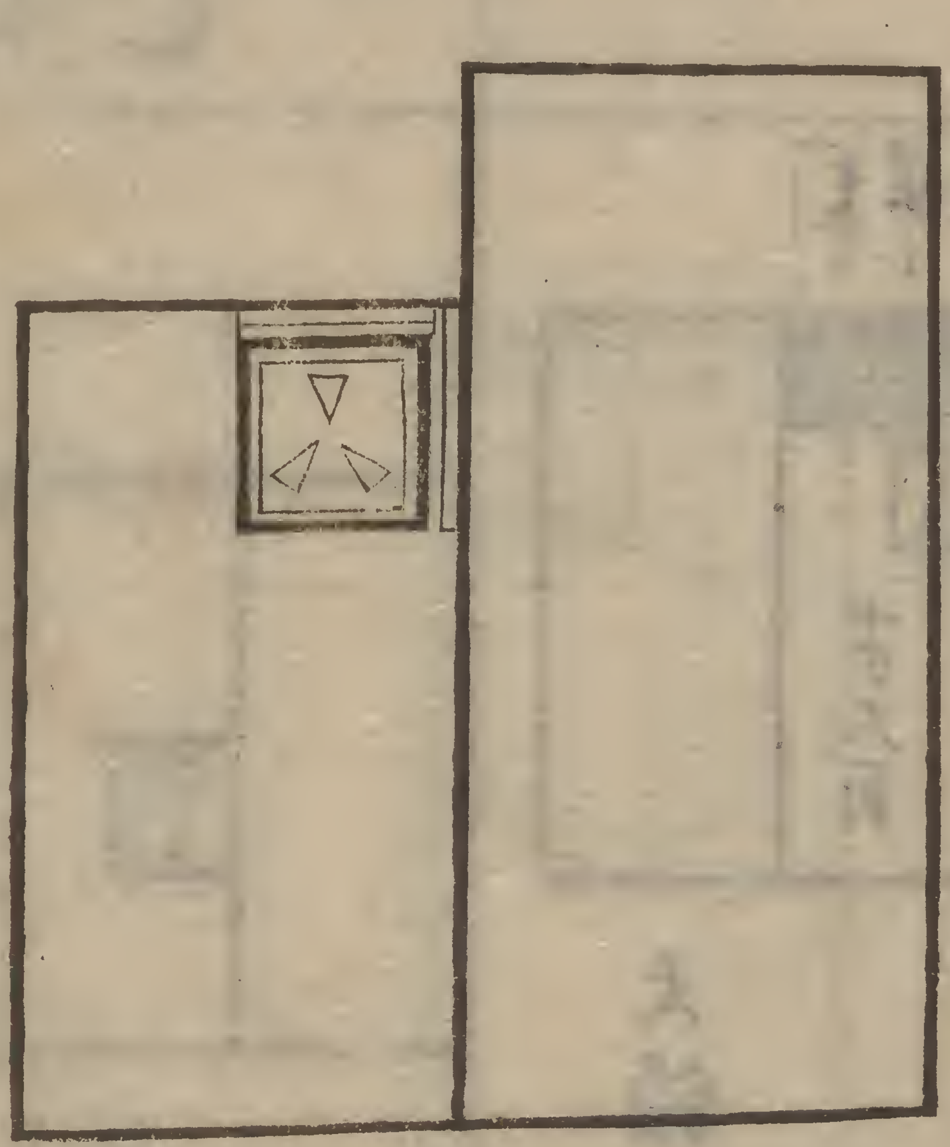
武正数寄屋の図

云也さてその時に火炉口より膳を出スさるゝ数
膳出ス口の様子を遠く居るを上座と見
茶立所　炉ふきく居るを上座とス　中立路
居切なると云なり　是也　四畳半同事
また四畳半ハ居切なりにて居つくりまた居様也
茶人の所存不同てよし
なまくらさ様子にて　見と四畳で知

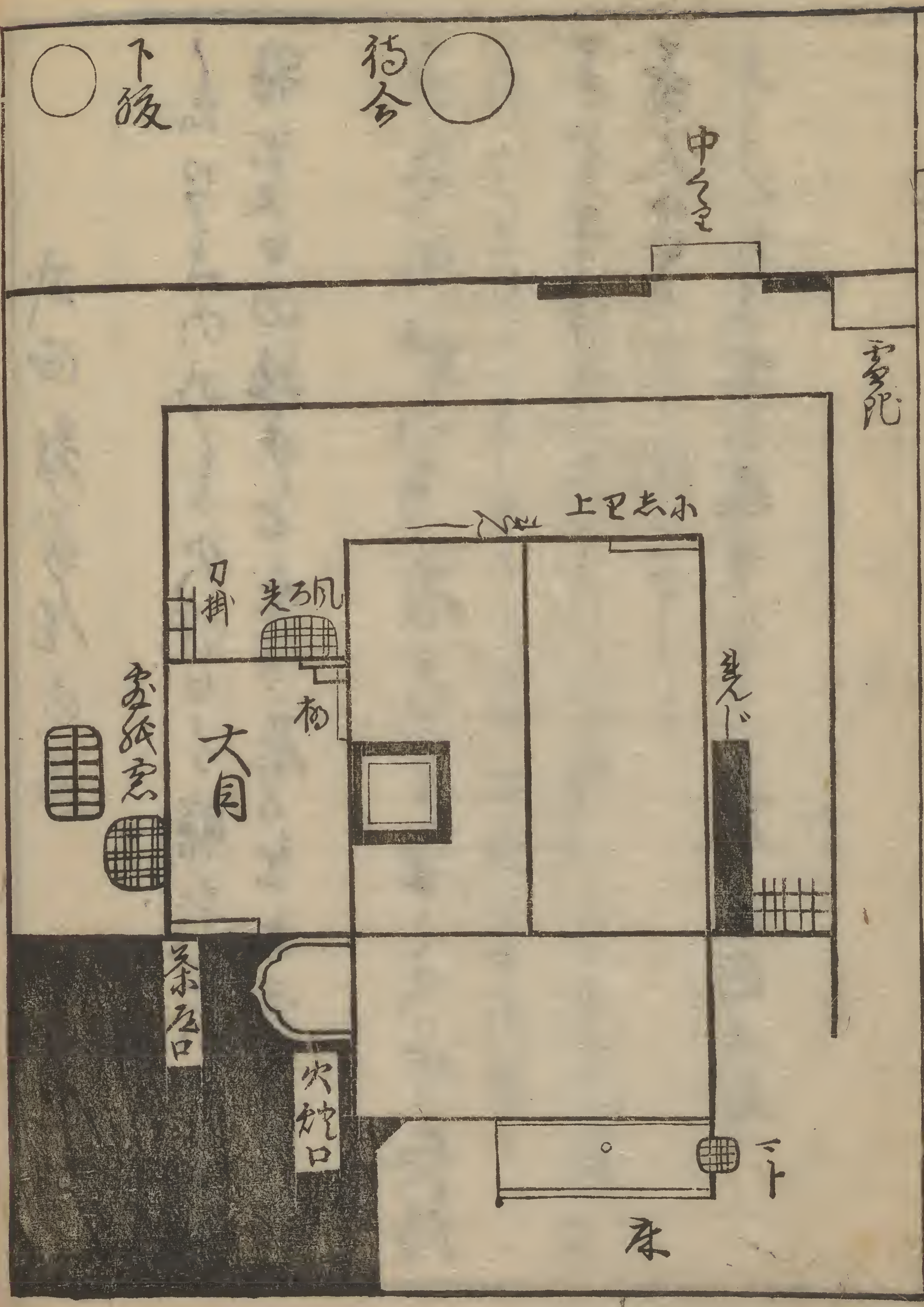




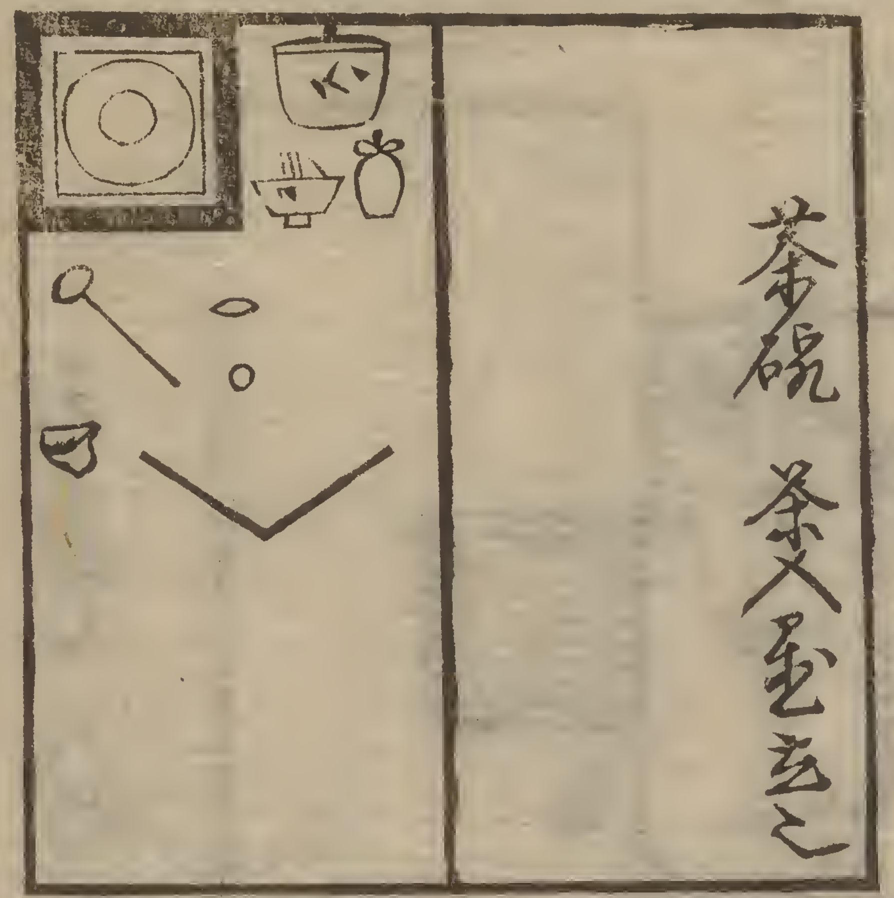
四畳半



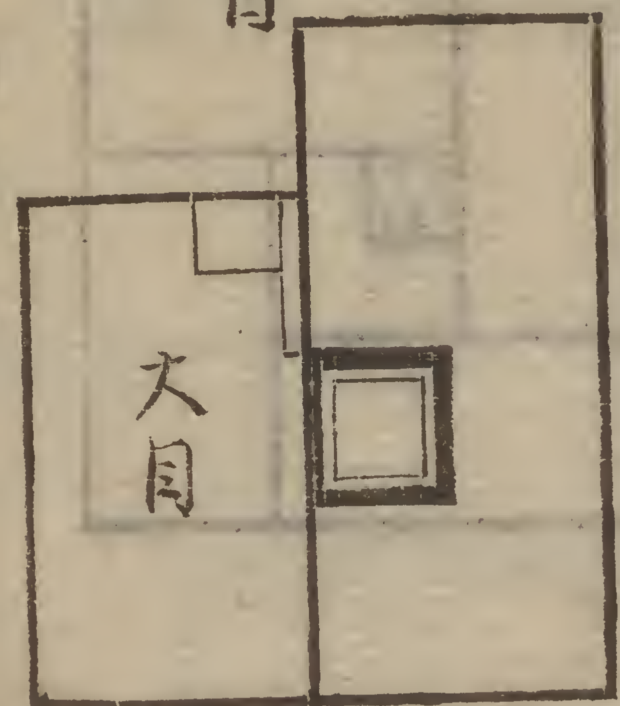
壱畳半大目
炉の入様右左也

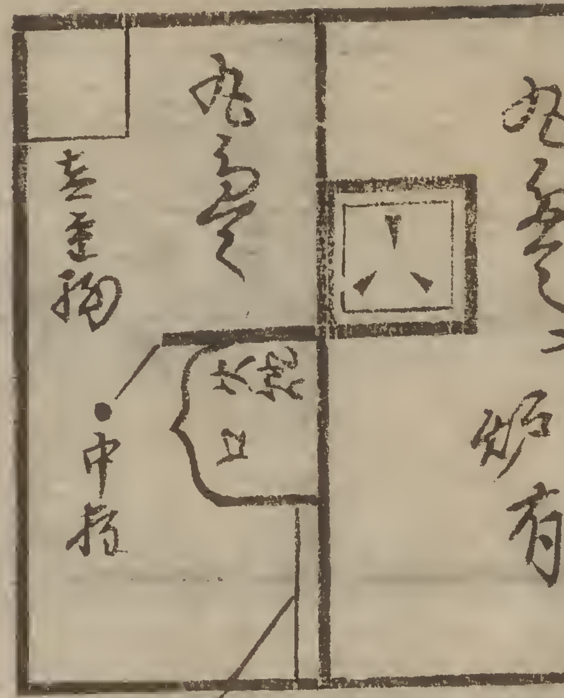


ちふたん
荘りの事



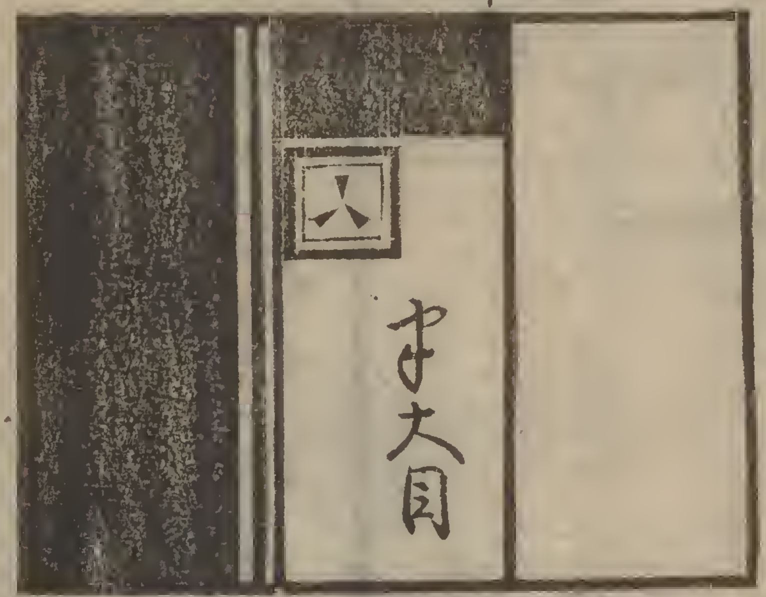
三畳
大目





戸之 手前 座

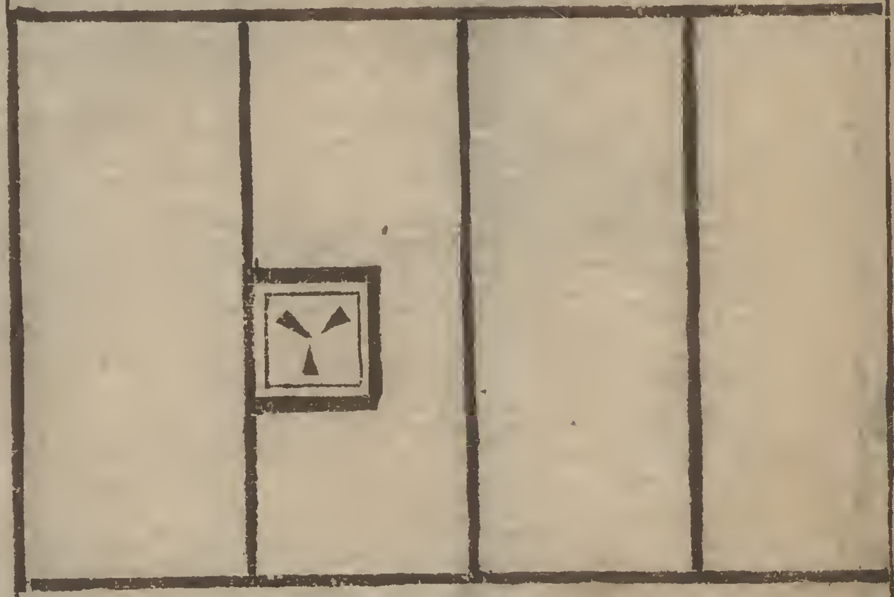
畳二
畳之
抜畳



天井有之

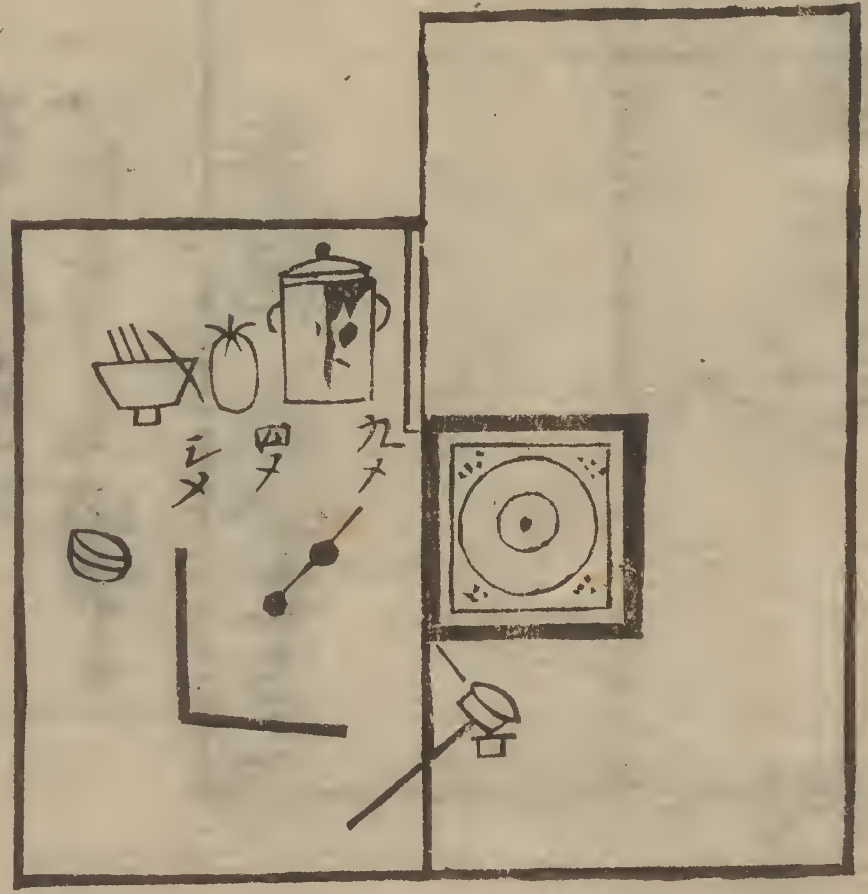
客人床居入
此書き畳
一段ひくし

長
四畳



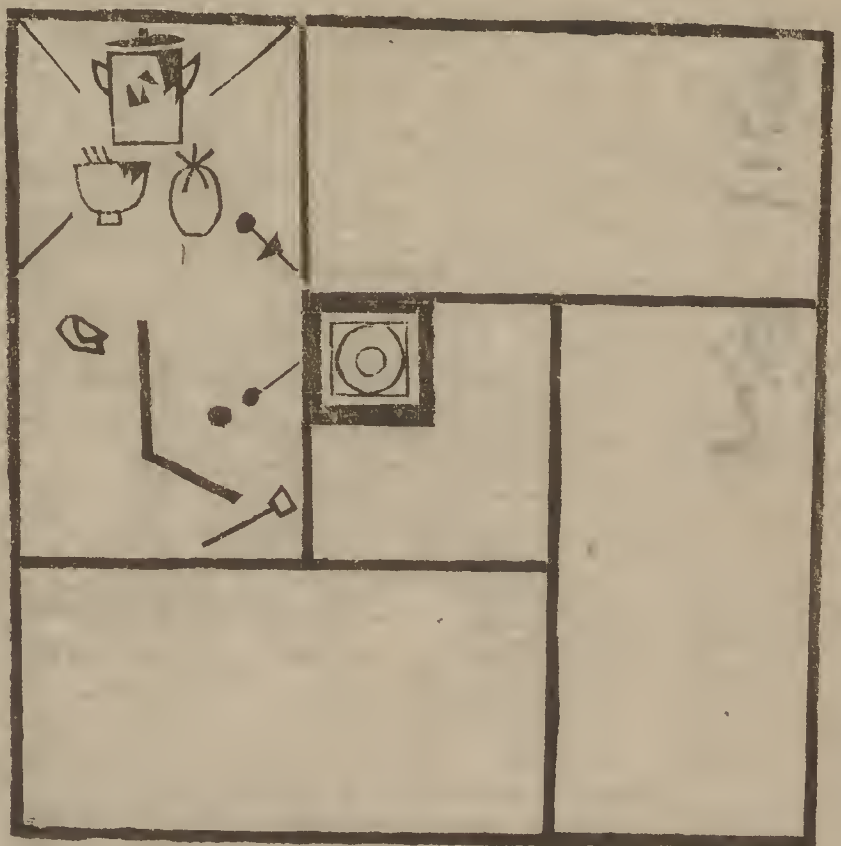
天井
有多

三色 大め 茶巻於器



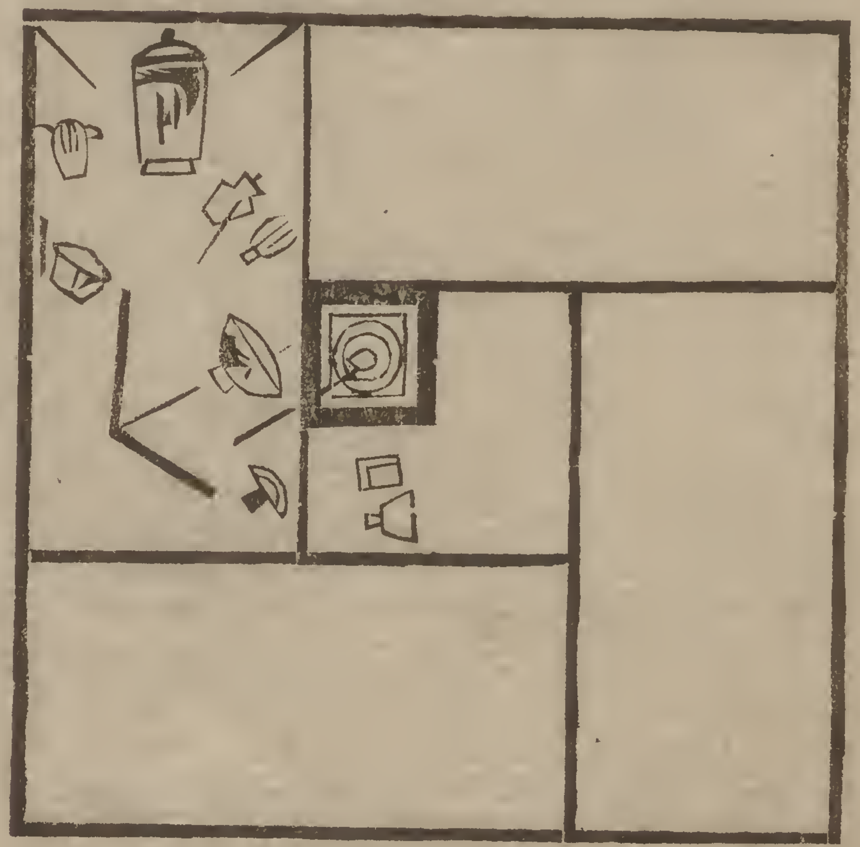
右繕子
左繕子有

四色半荘手



右繕子
左繕子有

立様器



炉のかこひめ所く大淀茶台

是ハ何ニ寄らずとも ましにて見のうち

ともしかるへし

巻二終